

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県 平成21年第53週、平成22年第1週の発生動向

【53週】

定点からの報告総数は1,711人（定点あたり35.1）で前週比53%と減少した。この減少は、年末年始等で定点医療機関が休診だったためと思われる。

53週に増加した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

【1週】

定点からの報告総数は2,033人（定点あたり46.0）で前週比131%と増加した。

今週増加した疾患は感染性胃腸炎と水痘であった。

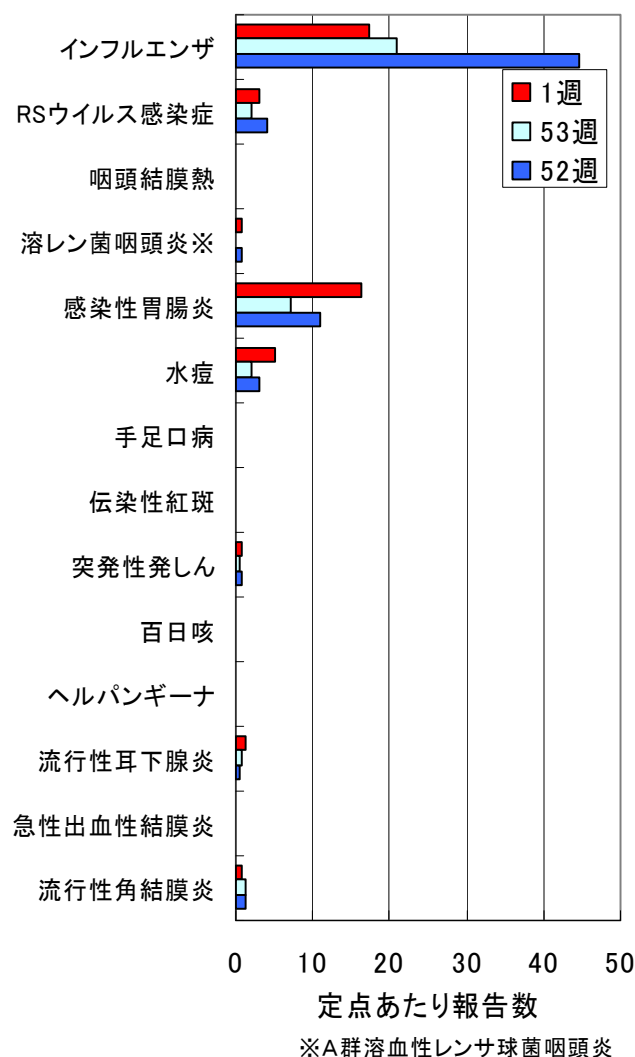
インフルエンザの報告数は1,023人（17.3）で前週の約8割に減少した。小林（35.8）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では5歳以下が全体の36%、6歳から9歳が17%、10歳から14歳が12%、15歳から19歳が6%、20歳代から50歳代が27%、60歳以上が2%を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は587人（16.3）で前週比228%と増加した。日南（30.3）、小林（23.3）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から4歳で全体の5割を占めた。

水痘の報告数は187人（5.2）で前週比260%と増加した。都城（9.5）、中央（8.5）、日南（7.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から2

歳で全体の5割を占めた。

《前週との比較》



□ 流行警報開始基準値を超えた疾患

【53 週】

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
インフルエンザ	30	20.9	都城(33.9)	5歳以下が全体の31%、6-9歳が23%、10-14歳が19%、15-19歳が6%、20歳代から50歳代が20%、60歳以上が1%を占めた。

【1 週】

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
インフルエンザ	30	17.3	小林(35.8)	5歳以下が全体の36%、6-9歳が17%、10-14歳が12%、15-19歳が6%、20歳代から50歳代が27%、60歳以上が2%を占めた。
感染性胃腸炎	20	16.3	日南(30.3)、小林(23.3)	1歳～4歳で全体の5割を占めた。
水痘	7	5.2	都城(9.5)、中央(8.5)、日南(7.0)	1歳～2歳で全体の5割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

【53 週】

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 4 例が宮崎市（1 例）、都城（1 例）、延岡（2 例）保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・70 歳代の男性で肺結核。咳がみられた。
《都城保健所》・70 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。
《延岡保健所》・2 歳の女児で無症状病原体保有者。
・80 歳代の女性で疑似症患者。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : つつが虫病 3 例が都城（1 例）、小林（2 例）保健所から報告された。
《都城保健所》・50 歳代の男性で頭痛、発熱、刺し口、発疹がみられた。IgM 抗体検出。山仕事中。
《小林保健所》・60 歳代の男性で頭痛、発熱、発疹がみられた。IgM 抗体検出。
・40 歳代の男性で刺し口、発疹がみられた。IgM 抗体検出。
- 5 類感染症 : 急性脳炎 1 例が宮崎市保健所から報告された。
40 歳代女性で病原体はインフルエンザ A (H1N1) pdm。発熱、意識障害がみられた。

【1 週】

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 2 例が宮崎市（1 例）、延岡（1 例）保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・70 歳代の男性で肺結核。発熱がみられた。
《延岡保健所》・30 歳代の女性で無症状病原体保有者。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国 平成 21 年第 52 週、53 週の発生動向

【52 週】

定点医療機関あたりの患者報告総数は 33.1 で、前週比 94%と減少した。52 週に増加した主な疾患は感染性胃腸炎、RS ウイルス、で、減少した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

【53 週】

定点医療機関あたりの患者報告総数は 18.5 で、前週比 56%と減少した。53 週に増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘であった。

インフルエンザの報告数は 48,128 人 (10.2) で前週比 52%と減少した。地域別では沖縄県 (54.9)、岐阜県 (23.4)、福井県 (22.7) からの報告が多かった。年齢別では 5 歳以下が全体の 25%、6 歳から 9 歳が 17%、10 歳から 14 歳が 13%、15 歳から 19 歳が 8%、20 歳代から 50 歳代が 35%、60 歳以上が 2%を占めた。

□ 全数把握対象疾患

【52 週】

- 1 類感染症 : 報告なし
- 2 類感染症 : 結核 315 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 18 例
- 4 類感染症 : A 型肝炎 2 例、オウム病 1 例、つつが虫病 23 例、デング熱 1 例、レジオネラ症 6 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 12 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 4 例、後天性免疫不全症候群 11 例、梅毒 5 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、風しん 1 例、麻しん 2 例

【53 週】

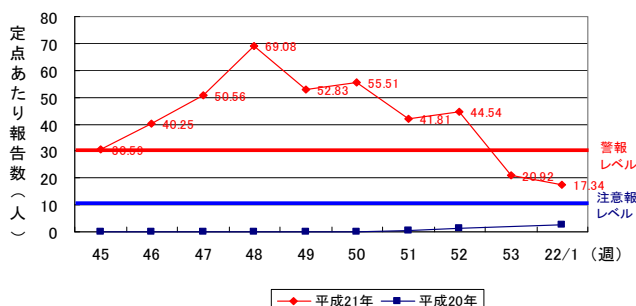
- 1 類感染症 : 報告なし
- 2 類感染症 : 結核 132 例、
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 16 例
- 4 類感染症 : つつが虫病 13 例、レジオネラ症 3 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 5 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 5 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、後天性免疫不全症候群 4 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 3 例、破傷風 1 例、麻しん 2 例

■ インフルエンザ情報《県内第 53・週 1 週、全国第 52 週・53 週（再掲）》

□ 県内第 53 週、1 週インフルエンザ発生動向

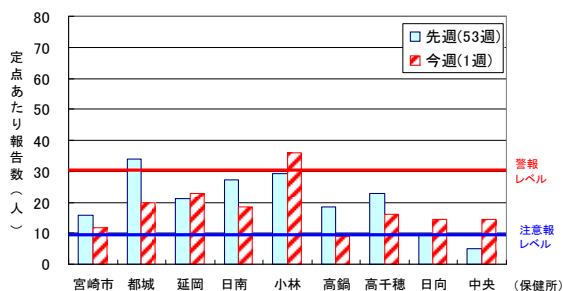
第 53 週（平成 21 年 12 月 28 日～1 月 3 日）の報告は 1,234 人（定点あたり 20.9）で、年末年始の影響により前週比 47%と大幅に減少した。第 1 週（平成 22 年 1 月 4 日～1 月 10 日）の報告は 1,023 人（定点あたり 17.3）で、前週比 83%と減少した（図 1）。小林（35.8）・延岡（22.7）・都城（19.9）・日南（18.4）保健所からの報告が多く、小林保健所管内では引き続き警報レベルを超えている（図 2）。年齢別では 5 歳以下が全体の 36%、6-9 歳が 17%、10-14 歳が 12%、15-19 歳が 6%、20 歳代・50 歳代が 27%、60 歳以上が 2%を占めた（図 3）。

（図1）インフルエンザ週別発生状況（過去10週）

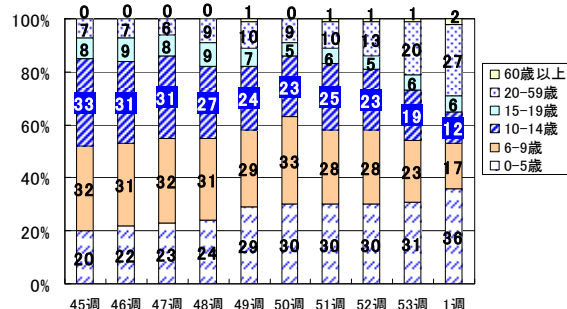


	第53週	第1週	累計 (30～53・1週)
集団発生件数	0	0	427
遺伝子検査陽性件数	4	8	392
型別	AH1亜型(ノ連型)	0	0
	AH3亜型(香港型)	0	0
	AH1pdm(新型)	4	8
入院患者数	11	6	228
重症患者数	2	1	14
死亡者数	0	0	2

（図2）インフルエンザ保健所別報告数



（図3）インフルエンザ報告数 年齢群別割合の推移（県内）



インフルエンザ 警報・注意報レベル状況

インフルエンザの定点あたり報告数と警報・注意報レベル発生状況

○：警報レベル、△：注意報レベル、－警報・注意報レベルなし

保健所	今週	(1週)	1週前	(53週)	2週前	(52週)	3週前	(51週)	4週前	(50週)	5週前	(49週)
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
宮崎市	11.9	△	15.7	△	35.3	○	44.8	○	64.3	○	63.3	○
都城	19.9	△	33.9	○	64.8	○	48.3	○	76.7	○	68.4	○
延岡	22.7	△	21.3	△	47.6	○	40.9	○	56.3	○	70.4	○
日南	18.4	△	27.2	△	55.8	○	47.6	○	36.2	○	39.6	○
小林	35.8	○	29.4	△	51.8	○	48.8	○	73.2	○	52.4	○
高鍋	9.2	－	18.3	△	45.5	○	44.3	○	52.5	○	39.7	○
高千穂	16.0	△	23.0	△	17.5	△	20.5	△	24.5	△	12.5	△
日向	14.3	△	9.3	－	35.0	○	27.5	△	26.8	△	29.8	△
中央	14.3	△	5.0	－	20.7	△	24.0	△	26.0	△	29.3	△

□ 全国第 52 週、53 週インフルエンザ発生動向

第 52 週（平成 21 年 12 月 14 日～12 月 20 日）は 94,228 人（19.6）の報告があり、前週比 87%と減少した。第 53 週（平成 21 年 12 月 21 日～12 月 27 日）は 48,128 人（10.2）の報告があり、前週比 52%と大幅に減少した。沖縄県（54.9）、岐阜県（23.4）、福井県（22.7）からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 25%、6-9 歳が 17%、10-14 歳が 13%、15-19 歳が 8%、20 歳代から 50 歳代が 35%、60 歳以上が 2%を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2009年 第53週(12月28日～01月03日)

疾病名		第52週	第53週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2628	1234	236	339	149	136	147	110	46	56	15
	定点あたり	44.54	20.92	15.73	33.90	21.29	27.20	29.40	18.33	23.00	9.33	5.00
RSウイルス 感染症	報告数	143	72	12	12	25			8		9	6
	定点あたり	3.97	2.00	1.33	2.00	6.25	0.00	0.00	2.00	0.00	2.25	3.00
咽頭結膜熱	報告数	5	2	1			1					
	定点あたり	0.14	0.06	0.11	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	29	13	4	2	2			1			4
	定点あたり	0.81	0.36	0.44	0.33	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	395	258	85	47	21	27	15	38	1	20	4
	定点あたり	10.97	7.17	9.44	7.83	5.25	9.00	5.00	9.50	1.00	5.00	2.00
水 痘	報告数	111	72	9	21	17	10	4	1	1	7	2
	定点あたり	3.08	2.00	1.00	3.50	4.25	3.33	1.33	0.25	1.00	1.75	1.00
手足口病	報告数	7	2	1							1	
	定点あたり	0.19	0.06	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	2										
	定点あたり	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	28	19	6	3	4	2	2	2			
	定点あたり	0.78	0.53	0.67	0.50	1.00	0.67	0.67	0.50	0.00	0.00	0.00
百 日 咳	報告数	1	1						1			
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	20	31	6	5	10					10	
	定点あたり	0.56	0.86	0.67	0.83	2.50	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	7	7	7								
	定点あたり	1.17	1.17	2.33	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2009年第1週～第53週)

2類感染症	結 核	251例(3)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	60 例	腸チフス	1 例	
4類感染症	A型肝炎	1 例	つつが虫病	22 例(3)	日本紅斑熱
	レジオネラ症	1 例	レプトスピラ症	1 例	5 例
5類感染症	アメーバ赤痢	6 例	ウイルス性肝炎	7 例	急性脳炎
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 例	12 例(1)
	ジアルジア症	1 例	梅 毒	11 例	後天性免疫不全症候群
	風しん	2 例	麻しん	1 例	3 例
					破傷風
					8 例

()内は今週届出分、再掲

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第01週(01月04日～01月10日)

疾病名		第53週	第1週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1234	1023	178	199	159	92	179	55	32	86	43
	定点あたり	20.92	17.34	11.87	19.90	22.71	18.40	35.80	9.17	16.00	14.33	14.33
RSウイルス 感染症	報告数	72	110	18	11	33			18		29	1
	定点あたり	2.00	3.06	2.00	1.83	8.25	0.00	0.00	4.50	0.00	7.25	0.50
咽頭結膜熱	報告数	2	8	1	3	2					1	1
	定点あたり	0.06	0.22	0.11	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.50
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	13	28	10	1	2	5		4	1	3	2
	定点あたり	0.36	0.78	1.11	0.17	0.50	1.67	0.00	1.00	1.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	258	587	129	115	44	91	70	64	5	38	31
	定点あたり	7.17	16.31	14.33	19.17	11.00	30.33	23.33	16.00	5.00	9.50	15.50
水痘	報告数	72	187	30	57	23	21	10	3		26	17
	定点あたり	2.00	5.19	3.33	9.50	5.75	7.00	3.33	0.75	0.00	6.50	8.50
手足口病	報告数	2	5	3	1		1					
	定点あたり	0.06	0.14	0.33	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	0	3	2	1							
	定点あたり	0.00	0.08	0.22	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	19	32	11	3	3	2	1	3		7	2
	定点あたり	0.53	0.89	1.22	0.50	0.75	0.67	0.33	0.75	0.00	1.75	1.00
百日咳	報告数	1	3			3						
	定点あたり	0.03	0.08	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.03	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	31	42	3	13	11					13	2
	定点あたり	0.86	1.17	0.33	2.17	2.75	0.00	0.00	0.00	0.00	3.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	7	4	3	1							
	定点あたり	1.17	0.67	1.00	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週)

2類感染症	結核	2例(2)
-------	----	-------

()内は今週届出分、再掲

宮崎県平成 22 年第 1 週

こども感染症情報

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）に注意しましょう。（1 月 4 日～1 月 10 日）

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）の報告が増えています。地域別では日南市、小林市周辺からの報告が多く、4 歳以下の子どもたちが多く感染しています。

この病気は、ウイルスや細菌などに感染することによっておこる急性の胃腸炎で、嘔吐と下痢が主な症状ですが、熱が出たり、おなかが痛くなることもあります。嘔吐や下痢によって脱水症を起こすことがありますので、水分補給に努めましょう。

感染を予防するためには、石けんと流水による手洗いが最も重要です。トイレの後、調理や食事の前には必ず手を洗いましょう。家族内に患者さんがいる場合には、家庭内での二次感染を防ぐようにしましょう。下痢等の症状が改善した後も、原因の病原体が便中に排出されることがあるので注意しましょう。

また、都城市、国富町、日南市周辺で水ぼうそうの報告が増えています。2 歳以下の子どもたちが多く感染しています。

インフルエンザの報告数は先週の約 8 割と減少しましたが、小林市周辺で依然として警報レベルを超えた高い状態が続いているので引き続き注意しましょう。